

九、豊臣秀吉朱印状（折紙）

解説

天正十八年（一五九〇）、秀吉は北条討伐のため三月一日に京都を出発し、二十七日には沼津に到着。二十九日に山中城を攻撃してこれを落城させた。この文書はその当日、秀吉から大友義統あてに出されたもの。豊臣秀次が山中城を落城させ、城主松田康長は勿論、敵の首を千余り討ち取ったことを報じ、明日四月一日には箱根山に陣を取り、小田原方面に軍勢を遣わすつもりなので小田原落城はまもなくだろうと述べている。ところがこの後、後北条氏は一族・重臣を小田原に集めて籠城。持久戦となったため、小田原落城は七月五日まで延びることとなる。